平成 27 年度の学校評価目標

1　建学の精神

不言実行　あてになる人間

(1)　「入れる学校」から「入りたい学校」へ

ア　特進コース、一貫コース、女子生徒の入学増を図る。
イ　授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進を図る。
ウ　授業に取り組む生徒・教員の姿勢の向上を図る。
エ　生徒の家庭学習の定着を図る。
オ　生徒が自信を持てるようにきめ細かい指導を行い、学力不振者減少の努力を継続する。
カ　授業を大切にし、わかりやすい授業に心がける。
キ　年間退学率を 2.5%未満にとどめるよう、生徒一人一人の指導に配慮する。
ク　いじめを許さない学校風土の醸成を図る。
ケ　授業評価や公開授業のアンケートに基づく教員の意識改革とレベルアップを図る。

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	(1) 募集定員を確保する努力 (2) 特進・一貫コースの特色の発信 (3) 中部大学との「高大一貫教育」の発信 (4) 建学の精神「不言実行、あてになる人間」の具現化	(1) 教育力の高さをアピールする。 (2) 本学園の教育制度を活用し、高大一貫教育の推進と女子生徒数を増やす方策を検討する。 (3) 特待生、スポーツ奨学生を含めた成績優秀者の募集に努め、定員を確保する。 (4) 学習・部活動や学校行事等、元気で魅力ある学校をPRする。	(1) 部顧問との連携を図り、生徒数の確保を目指す。 (2) 各学校見学会の特徴付けをすることにより、中学生とその保護者に対して、本校の認知度を高める。 (3) 各中学校訪問を6・9月に実施するにあたり、より本校の魅力を浸透させる努力をする。 (4) 年4回の学校見学会を最も重要な行事と位置づけ、学校全体で取り組む。
総務部	(1) 災害発生時の対応の強化 (2) 修学旅行の見直し (3) 朝読の総括	(1) 放課中の避難訓練の模索、検討をする (2) 修学旅行の行き先の検討を行う。 (3) 仕事の固定化を避け、ローテーション化する。	(1) 災害発生時の対応で、告知なしの状態でも行動がとれる意識付けする。 (2) 平成28年度実施に向けて、修学旅行の行き先・業者を検討する。 (3)「中部大学第一高校の百冊」を完成させるとともに、平成28年度からの方向について検討する。
教務部	(1) ICT教育対応に向けての準備検討 (2) 退学率の減少を図る (3) 教務システム更新の検討	(1) 電子黒板の利用により、基礎学力の定着向上につながる授業展開の工夫をする。 (2) 問題を抱える生徒の情報を共有し、それぞれの立場で早期に対応する。 (3) 様々なデータの保管・管理を見直す。	(1) 電子黒板の利用を中心に、公開授業週間や研究授業などを通して、基礎学力の定着向上につながる授業展開を検討する。 (2) 学年運営員会や教育課程委員会などにおいて、問題を抱える生徒の状況・成績・履修状況を把握・共有し、それぞれの立場で早期に対応する。 (3) さまざまなデータの保管・管理、もしくはデータ入力、調査書や指導要録などの打ち出しにおける問題点を整理し、改善に向けて取り組む。
生徒指導部	生活規律の向上と良好な学習環境の確保に努める。 (1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。	(1) 問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、関係者との連携を強化する。 (2) 問題行動を未然に防ぐ施策を検討する。 (3) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (4) いじめによる問題行動を防ぐため、細やかな指導姿勢で臨む。	(1) 生徒に関する問題点を関係者で共有し、初期対応の迅速化を図る。 (2) 問題行動を未然に防ぐために、日頃から生活規律向上のための意識づけを図る。 (3) PTAによる街頭指導をサポートする。各種講習会をはじめとする交通安全指導の充実を図る。 (4) いじめの早期発見と早期指導を行うために、校内連携を迅速に行う。
特活部	(1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高める。 (2) 部活動を物心両面で支援する。 (3) 教育相談を充実させ学年・分掌との連携を図る。	(1) 文化祭のクラス参加を年度当初から推奨し実行委員を活用する。 (2) HP等の広報活動によって、部活動の実績を公表し、達成感や帰属意識を高める。 (3) 予算消化実績、顧問人数に応じた推進費配分(小規模予算に限る)をする。 (4) カウンセラー、学年会、生徒指導部との連絡を密にする。	(1) 事前マニュアルとアンケートを活用し、参加意識、満足度を高める。 (2) 本校にない種目で高体連等の大会に参加する生徒も支援する。 (3) 心配な生徒にはできるだけ早く対応できるようにする。
研修部	(1) 研修会の充実 (2) 現職教育の模索 (3) 学校生活における意識調査の実施 (4)「学校評価に関する調査」の実施 (5) ESD活動	(1) 初任者研修会(5回)、初任者研究授　業(2回)を実施。 (2) ESDに関する講演会を実施する。 (3) 学校生活意識調査・学校評価（保護　者対象)の実施と分析。 (4) ESD活動へより積極的に参加できる協力体制を構築する。	(1) 渉外部実施の私立学校展へ参加する。 (2) ESDに関する講演会(生徒、教員向け)を年度初めに実施する。 (3) 校内研修を少なくとも1回は実施する。テーマはいじめに関することを取り上げる。 (4) ESD活動について業務分担をし、多くの教員がかかわるようにする。

	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導部	自分の興味や適性を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定し進路を確保する。	(1) 進路未定者を出さない。 (2) 中部大学への進学を確保する。 (3) 中部大学100名、就職一次合格80%、国公立大学10名、進路未定者0名を実現させる。	(1) 校内就職選考をより慎重に行い。ミスマッチを防ぐ。 (2) 中部大学への進学については、普通科だけでなく、機械電気システム科の進学を促進する。 (3) 国公立大学合格は、特進だけでなく、一貫・アドバンス等からも受験を促進する。
普通科	(1) 3ヵ年の学習計画に基づき学習先頭集団を育て、国公立大学への合格者を増加させる。 (2)中部大学への進学希望者を増やし、大学を4年間で卒業できる学力をつける。 (3) 早期の進路目標設定により、学習習慣を確立し、きめ細やかな進路指導に繋げる。	(1) 英語力強化のために、普通科の全体目標を英語検定に絞り、合格に導きながら、学習意欲の向上に繋げる。 (2) 自習室の利用や家庭学習の促進等、学習支援及び学習意欲向上の方策を検討する。 (3) 各コースの特徴を生かせるよう、コース別進路検討会の継続と、中部大学との連携理解に努める。 (4) 基礎学力の向上を図る。	(1) 3年間英単語小テストの実施と、1年生(特進・一貫は除く)はマナトレの実施。英検を義務化し、英語の基礎学力向上に取り組む。 (2) 20時まで自習室の開放や各教科の学習指示の見える化を行い、家庭学習意欲の向上を図る。 (3) コース別進路研究会で、情報の共有化を行い、中部大学をはじめ進路指導の効率化を図る。また、中部大学と連携した取組を通し中部大学での学びの理解をより一層図る。
機械電気システム科	(1) ジュニアマイスター顕彰取得者の増加 (2) 技能士受験を目指す (3) 進路先の開拓 (4) 機械電気システム科の特異性の構築	(1) 模擬試験等の窓口を一本化により、受験情報を得やすくする。 (2) コースに応じて、技能士受験を軌道に乗せる。 (3) 進路指導部との連携を図ると同時に、生徒の基礎学力向上を図る。 (4) ロボット競技会やESD活動へ積極的に参加する。	(1) 申し込みから受験に至るまでの指導体制を確立させる。 (2) 新たな試験を授業内容に取り込む工夫をする。 (3) マナトレの活用やSPIの導入を行う。 (4) ロボット競技会については、計画的に準備を行い、ESD活動として再生利用可能エネルギーの活用で、風力発電に取り組む。
1年生	(1) 高校生として基本的生活習慣を身につけさせる。 (2) 資格取得や進路指導を通し、短期的目標や長期的目標を持たせる。 (3) 各科・コースの特徴に活かした取組を行う。	(1) オリエンテーション合宿や4月のHRを有効的に活用して指導を行う。 (2) 資格取得(英検や機械電気システム科の各種検定)・補習・自習室など学習する機会を与え、継続的に指導する。また、これらの指導を通して家庭学習の大切さを理解させ、学習習慣を身に付けさせる。 (3) 普通科は、転コースや文理選択に向けて、HRや総合的な学習の時間を通して必要な情報を与え、自発的な選択ができるよう指導する。 機械電気システム科は、将来の職業希望からコース選択ができるようHRや総合的な学習の時間を通して、情報発信を行う。	(1) 1年学年会の団と関係分掌との連絡を密にする。 (2) 話を聞く姿勢の定着、課題の提出を厳守する意識を持たせる。 (3) 個々の生徒の個性を把握し、個々の状況に合わせて適切な指導を行う。
2年生	(1) 学校生活で中心的役割を果たせるよう、生徒の意識向上と行動力を高める。 (2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。 (3) 各コース、系に沿ったきめ細かい指導を行い、積極的な資格取得を目指す。	(1) 中心学年として、生活全般に対して繰り返し指導を行う。 (2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。目標は意欲的な学習に繋げるためより高くさせる。 (3) 実用英語検定もより上位級合格を目指すとともに、新たな資格取得に取り組ませる。 (4) クラス担任間や教科担任との連絡を密にし、生活・学習・進路等の状況把握と対策を速やかに行う。	(1) 1年生の学年団と、関係分掌の連絡を密にする。生活全般にわたり、STやHRを利用し指導する。特に欠席・遅刻・早退防止の意識付けを行う。 (2) 具体的な目標の設定に向けた学習習慣ができるよう継続的に指導する。 (3) 帰りの英単語小テストに対する指導を継続するとともに、上位者に対しても丁寧な指導を行う。 (4) 新たな資格取得に積極的に取り組ませ、合格に向けて支援する。
3年生	(1) 最上級生としての自覚や社会人を意識した行動をとれるようにする。 (2) 主体的に進路決定をし、それに向けて努力させる。 (3) コース、系に沿ったきめ細かい指導と、積極的な資格取得を目指す。	(1) 進路を意識し、目標のある落ち着いた生活と行動を取らせる。 (2) 主体的に進路を決めさせ、進路に添った自学自習に対して、早い段階でのきめ細やかな指導を行う。 (3) 進路を意識し、より積極的に資格取得の取り組みをする。 (4) 教員間の連携を密にし、個々の状況把握をし、生徒に応じた指導ができるようにする。	(1) HRや学年集会などの機会を捉え進路実現への計画と対策が、より具体的で現実的なものとなるよう指導を行う。 (2) 中部大学をはじめ進学に関する情報を早めに提供し、自主的な取り組みを促す。 (3) 教科担当との連絡を密にし、生徒の個別学習に生かすようにする。 (4) 新たな資格取得に積極的に取り組ませ、合格に向けて支援する。